

災害時の不安を軽減する安心・安全 体制づくり

平成26年7月

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

蘇我中学校地区コミュニティ づくり懇談会の紹介

設立目的

この地域で活動している各種団体を幅広く
会員とし、横の連携を強め、縦割り社会の
問題点を補完しながら、協力し合って地域
全体が更に住み良くなる事を目的とする。

設立年月・・・昭和61年7月

現在の構成メンバー(各団体の長が原則会員)

- 第九地区連協各町内自治会長(49名)
- 地区内1中4小の校長(5名)・PTA会長(5名)、千葉工業高校・千葉南高校・淑徳大学の代表(3名)
- 4小地区スポーツ振興会長・推進委員理事(4+4名)
- 4小地区子ども会育成会長・交通安全協議会長・学校体育施設開放委員会会長(4+4+5名)
- 社協地区部会長・民児協会長(2+2名)
- 老人クラブ連合会長・婦人会長・商店会会長・交通安全協会支部長(2+2+4+4名) 地区在住県・市議会議員(4名)
- 青少年育成委員会会長・補導員・相談員・保護司の代表(4名)
- 幼稚園・保育所,園・公共施設の長(2+5+5名)
- 郵便局長・企業の代表,蘇我駅長(4+7名)
- 合計 130名。兼務している人がいるので人数は108名

現状の役員構成

役員は任期1年で、毎年理事会で推薦し総会で承認を得る事になっている。

会長……………1名

副会長……………4名

理事……………14名(規程は若干名、例年この程度)

会計……………2名

監査……………2名

合計……………23名(H26.3.31日現在)

これまでの事業内容

1. 懇親会や見学会も実施しているが、コミュニティ懇談会開催がメインの事業となっている。
2. 理事会で、その時々に関心の高いテーマを出し合い、議論して2~3件に絞り込みを行う。
3. そのテーマに関係が深い行政の長等に講師をお願いし、懇談会を開催する。
4. 懇談会では、講演の後忌憚のない意見交換を通し、相互理解を深めてきた。

コミュニティ懇談会一覧

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

	年月日	テ ー マ	講師
1	S62.10. 6	蘇我中学校地区の諸問題	
2	S63.11.24	千葉市長との対話集会	
3	H 1.11.22	千葉市長との市政懇談会	
4	H 2.11.22	地域で抱える課題とテーマについて	
5	H 3.11. 5	政令指定都市になると千葉市はどう変わる	
6	H 4.11.26	清掃行政の現状と問題点	千葉市 環境局長
7	H 6. 3. 4	地域の防災を考える	千葉市 防災対策課長ほか
8	H 7. 2.18	区長を囲む会	小川区長
9	H 8. 2.17	千葉市の新5カ年計画	千葉市 企画調整局長
10	H 8. 7.24	蘇我臨海部開発整備基本構想について	千葉市 都市計画課長
11	H 9. 2.28	区長を囲む会(千葉市新5カ年計画の中央区での進め方等)	杉本区長
12	H 9.11.13	千葉南警察署長を囲む会	千葉南警察署長
13	H10. 2.25	みんなで進める青少年の育成	千葉市 教育長
14	H10.11.21	青少年の薬物乱用の実態	千葉北警察署 主任婦人補導員
15	H11. 2.19	介護保険制度とこれからの社会福祉	淑徳大学 小倉先生
16	H11.11.20	補導現場からみた青少年の実態と地域社会	千葉市補導センター長
17	H12. 2.19	区長を囲むでの懇談会	菊地区長
18	H12.11.26	青少年問題とその対応	千葉南警察署 星署長
19	H13. 2.17	蘇我臨海地域の整備基本計画	千葉市 島田助役
20	H13.11.29	学校週5日制にともなう教育問題	蘇我中学区 五校校長
21	H14. 2.23	区長を囲む懇談会	根古谷区長
22	H14.11. 1	蘇我駅周辺地区の再開発	千葉市 林助役
23	H15. 3	蘇我特定地区整備計画・蘇我駅東口周辺地区の建設経緯	千葉市 都市局次長
24	H15. 7. 5	蘇我駅駅舎の改修計画と自由通路の拡幅について	JR蘇我駅 前澤駅長
25	H15.11.30	地域内における防犯等について	千葉南警察署 生活安全課長
26	H16.10.31	区長を囲む懇談会	山本区長
27	H17. 2.19	蘇我駅周辺の整備計画等について	千葉市 林助役
28	H17.11.19	南町宮崎町線沿道地区のまちづくりと都市計画マスタープランについて	千葉市 都市計画課長
29	H18. 2. 4	千葉市の教育問題と蘇我中学校地区の懸案事項について	千葉市 飯森教育長
30	H18.10. 9	蘇我中学校区の教室不足について	千葉市教育委員会各課長
31	H18.12. 9	千葉南警察署長を囲む会(警察の管轄区域変更を含めたお話)	千葉南警察署 宮内署長
32	H19. 7. 7	千葉市保健福祉局長を囲む会	千葉市 高梨保健福祉局長
33	H20.2.2	通学区域説明会(蘇我中学校区の学区の問題について)	千葉市教育委員会学事課長他
34	H20.11.12	JFE工場・フクアリ・スクエア・グローボ見学	JFE /千葉市都市計画課
35	H21.2.21	地域の防災について	市民局 押尾総合防災課長
36	H21.11.28	区長を囲む懇談会	花島区長
37	H22.2.20	市長を囲む懇談会	熊谷市長/臨海地域再整備課長
38	H22.3.27	淑徳大コミュニティ学部創設の説明会	淑徳大学学部長他
39	H22.11.21	ひったくり・振り込め詐欺などの防犯講話	千葉中央警察署 小宮生活安全課長
40	H22.12.12	「ジェフ千葉 ユナイテッドパーク(クラブハウス)」見学会	ジェフ千葉社長
41	H23.2.12	千葉市のごみの現状と課題	千葉市収集業務課 神崎広史課長
42	H23.12.25	放射能・感染症・予防接種 健康に関する最近の話題について	千葉市保健福祉局 山口健康部長
43	H24.2.17	航空機騒音問題と今後の対応	熊谷市長

最近のコミュニティ懇談会の内容

No.	年月日	テーマ	講師
44	H24.12.1.	千葉市のごみ問題について	熊谷千葉市長
45	H25.2.16.	災害時の被害予想と対策の現状について	山崎防災対策課長・ 花輪くらし安全室長
46	H25.11.30.	千葉市の街づくりの現状について	河野都市局次長
47	H26.2.22.	中央区長を囲む会(区民対話会)	志村中央区長
48			

理事会(総数23名)で意見集約・決定等を行った時、参加した事になる各種団体

各種団体名	参加した団体数	団体数の総数
町内自治会	15	49
社協地区部会	2	2
民生児童委員協議会	1	2
スポーツ振興会	4	4
青少年育成委員会	1	1
子ども会育成連絡会	2	4
スポーツ推進委員会	4	4
学校体育施設開放運営委員会	5	5
交通安全協議会	1	4
商店会	1	4
P T A	1	5
青少年補導員連絡協議会	1	1

今回出された地域の課題対応方針

1. 地域運営委員会構想に地域としてどう対応するか・・・市の準備が整えば懇談会開催。
2. 内容を充実した避難所運営委員会の立上を完成・・・今回取り上げ。
3. 災害時の安否確認と避難支援体制づくり・・・今回2と一緒のテーマにして取り上げ。
4. 千葉メディカルセンターの新病院完成後見学と地域の医療体制(三愛記念そが病院の今後)・・・見学会は実施の予定。医療体制については、そが病院へヒヤリングし、その結果により判断する。

今回取り上げたテーマ

1. これまでのテーマ選定と同じプロセスでテーマの選定を行った結果、「災害時の不安を軽減する安心・安全体制づくり」にする事にした。
2. このテーマ選定にあたっては、「コミュニティづくり懇談会」を将来的に「地域運営委員会」に移行した場合の問題点等を把握するトライアルと考えた。
3. そのため、このテーマに実際に取り組み、成果を上げる必要が有るが、活動の中心は町内自治会が担い、社協地区部会や民児協を始め、各団体が協力して実施して行く事にした。

1. 目的

地震等の災害が発生した時、多くの人が強く抱いている不安を軽減するために、「安否確認」・「避難支援」・「避難所運営委員会の立ち上げ」を確実にまたスムーズに行える体制を整える。

2. これまでの経緯-1

- (1) 社協白旗台地区部会では、見守り体制づくりのため、2年前に大規模なアンケート調査を行った。
- (2) その結果は、「災害時の安否確認」を希望した世帯は42.5%、「避難所迄の避難支援」を希望した世帯は39.4%、「平常時のさりげない見守り」を希望した世帯は23.7%であった。
- (3) これだけ多くの希望があると、お互いに「助けられたり・助けたり」する事が必要で、各町内自治会で対応を検討し、体制づくりを進めてきた。
- (4) その多くは、ごみステーション等の身近な場所に組・班単位で一次避難所を設け、全員がそこに集まり、手分けして安否確認を行い、それ以降は全員一緒に助け合いながら避難すると言った対応が多かった。

アンケートの纏め(見守り希望)

内容	宮崎小地区 回答数 963	大森小地区 回答数 1,812	大巖寺小地区 回答数 920	合計 回答数 3,695
平常時のさりげない見守り	205	447	224	876
災害時の安否確認	432	763	374	1,569
災害時、避難所への避難支援	400	708	347	1,455
合計	1,037	1,918	945	3,900
内一つでも記載した回答数	627	1,216	594	2,437

3つの町内自治会で検討してきたモデル

花輪町自治会の見守り・災害時の支援体制について

A. 支援体制づくりの経過及び考え方

1. 平成24年秋に実施した社協白旗台地区部会のアンケート調査の結果、支援を希望する人が非常に多かった。
2. この結果を受けて、本年 1月に実施した自治会役員会で議論し、下記の通り支援体制を定めた。
3. この支援体制は、総会で確認後スタートし、毎年総会前の自治会役員会で見直すこととする。

B. 日頃のさりげない見守り

1. 毎週 5回実施している防犯パトロールで、新聞・郵便物や洗濯物の放置等さりげない見守りを実施する。
2. パトロールの拍子木の音が聞こえたら、支援希望者をはじめ出来るだけ多くの人に顔を出してもらう。
3. それ以上の見守りが必要と判断したのは下記の 2名で、さりげない見守り支援者も下記のとおりとする。(敬称略)

No.	要支援者	支援者
1	小阪貞子	佐藤次郎・ヤス子、奥善栄・マリ子、武井雅光・美子
2	岡田京子	坂本紀利・君子、藤田浩美・絹子、鈴木壽善、郡司栄

C. 災害時の安否確認・避難所への避難支援

1. 各組ごとにごみステーションを 1次避難所とする。但し 6組と両吉田さんの 1次避難所は集会所とする。
2. 災害により花輪第 4橋の通行に問題が有る場合は、原田さん宅前も 1次避難所とする。
3. 震度 5強以上の地震発生時、在宅者は全員1次避難所に集合し、手分けして全世帯の安否確認・避難支援を行う。
4. 自治会役員は状況を把握し、大蔵寺小学校等への避難、集会所・自宅待機等の指示を出し、全員一緒に行動を取る。
5. 避難所運営委員会の設置に向けて、千葉南高校への避難が可能になった場合、そちらへの避難指示を優先する。
6. 以上は役員等が在宅の事を前提としているが、不在の場合は全員で補い合うこととする。
7. 中央区ふくし・防災ガイド & マップを保管し、見守りカードに必要な事を記載しておくこととする。
8. 各家庭で 3日分の生活必需品を備えることとし、集会所にも 1日分以上の食糧・水を備蓄しておくこととする。
9. 上記に加えて、特に重点を置く必要が有ると判断した要支援者、支援者は下記の通り。(敬称略)

No.	要支援者	支援者
1	小阪貞子	佐藤次郎・ヤス子、奥善栄・マリ子、武井美子
2	岡田京子	坂本紀利・君子、藤田絹子、鈴木壽善、郡司栄
3	吉島信子	深見洋子、御園良治・かづ江、西田紀子、佐々木良子、阪田浩
4	吉田世恵子	坂本紀利・君子、藤田絹子、鈴木壽善、郡司栄
5	藤井正子	原田美恵、藤田絹子、坂本君子
6	亀田典子	須貝孝子、大塚晴美、橋本久夫、南政常
7	橋本アイ子	水野健二・八重子、及川規、武井美子

D. この支援体制は平成25年4月1日より開始するものとする

3. これまでの経緯-2

- (1) 蘇我中学校地区には、10か所の避難所があるが、その全てで避難所運営委員会を平成25年に立ち上げ、規約や役員名簿等が完了している。
- (2) 更に各避難所毎の地域特性、特に福祉ニーズの調査を行い、こうした地域特性に十分配慮した「地域に密着した避難所運営マニュアル」づくりに取り組んできた。
- (3) ほぼ全ての避難所で「地域に密着した避難所運営マニュアル」ができつつあるが、立ち上げ時に必要な備品で不足しているもののがかなりある事も明らかになってきた。

第九地区連協町丁目子ども・高齢化率

平成25年9月30日現在

町丁目名	全体人口	14歳以下	65歳以上	子ども率	高齢化率	備考
中央区全体	199,961	25,646	42,516	12.8	21.3	
赤井町	1,418	245	359	17.3	25.3	
今井町	862	51	257	5.9	29.8	少子高齢化、4倍以上
今井 1丁目	1,422	123	291	8.6	20.5	
今井 2丁目	1,244	132	212	10.6	17.0	
今井 3丁目	1,296	133	207	10.3	16.0	
鵜の森町	1,112	160	231	14.4	20.8	
大森町	5,334	632	1250	11.8	23.4	
白旗 1丁目	1,114	80	453	7.2	40.7	少子高齢化、4倍以上
白旗 2丁目	1,257	95	412	7.6	32.8	少子高齢化、4倍以上
白旗 3丁目	1,516	201	382	13.3	25.2	
蘇我町	28	4	8	14.3	28.6	
蘇我 1丁目	1,546	138	284	8.9	18.4	
蘇我 2丁目	1,242	230	167	18.5	13.4	若い町
蘇我 3丁目	2,160	470	260	21.3	12.0	若い町
蘇我 4丁目	1,213	309	93	25.5	7.7	若い町
蘇我 5丁目	2,026	273	338	13.5	16.7	
大巖寺町	1,988	145	639	7.3	32.1	少子高齢化、4倍以上
千葉寺町	7,306	1,129	1,404	15.5	19.2	
花輪町	692	51	207	7.4	29.9	少子高齢化、4倍以上
南町 1丁目	1,449	361	112	24.9	7.7	若い町
南町 2丁目	1,598	224	161	14.0	10.1	若い町
南町 3丁目	1,752	208	338	11.9	19.3	
宮崎町	7,790	1,323	1,137	17.0	14.6	若い町
宮崎 1丁目	1,344	106	159	7.9	11.8	
宮崎 2丁目	1,556	235	217	15.1	13.9	若い町
若草 1丁目	1,561	290	195	18.6	12.5	若い町
川戸町	3,450	414	1,055	12.0	30.6	
仁戸名町	8,271	804	2,568	9.7	31.0	

高齢化率7%以上・・・高齢化社会、14%以上・・・高齢社会、20%以上・・・超高齢化社会、25%以上・・・超高齢社会

4. 取組内容

- (1) 各町内自治会毎に災害時の安否確認・避難支援のルールを完成し、実施できる体制にする。
- (2) 各避難所の避難所運営マニュアルを見直し・完成させて、実施できる体制にする。
- (3) 8月31日の防災訓練時に、「安否確認」「避難支援」「避難所の立ち上げ」の実訓練を実施する。
- (4) 訓練結果により、ルールやマニュアルの修正・補充を行い完成する。必要な備品の補充も行う。
- (5) 避難所運営委員・町内自治会役員の研修を行う。
- (6) 各避難所運営委員会の交流会・研修会も行う。

5. 期待する成果

- (1) 災害時の安否確認・避難支援・避難所の立ち上げまでの一連の体制づくりを行い、災害時の不安を軽減する。
- (2) 研修会・各避難所の交流会の開催により、地域に防災に強い人材を多く育成する。
- (3) 地震等の災害時、その各段階で自分はどう行動すれば良いのか、多くの住民に理解してもらい、落ち着いて安心して行動できるようにする。

8月31日訓練の実施項目とタイムスケジュール

時刻	一般避難者・住民	避難所
8時30分		避難所運営委員は全員避難所へ集合 避難所立ち上げ訓練開始 避難所の安全確認(役員・総務班) 避難所場所割りの実施・表示(施設班) 受付の開設準備(総務班・施設班) 備蓄品の確認・指定場所へ搬送(物資班) 非常食等の配布準備(食糧班) けが人・病人・要支援者対応準備(救護班)
9時0分	地震発生、一時避難所へ全員集合	上記作業が終了したら、手が空いた人から地域に戻り、安否確認の支援を行う。各班の1/3は残り、マニュアルに決めた作業を行う。
9時10分	一時避難所未決定の町内自治会も組単位等で決めて、以下の対応を極力努力して実施する。	
9時10分	集まった人で手分けして安否確認実施 全戸チェック、見守りカードも活用する。	避難所運営委員会室・福祉避難室・男女別更衣室等順次立ち上げる。 仮設トイレの設置準備・実施。
9時30分	必要な救助行いながら一時避難所に再集合 安否確認終了したら一時避難所で待機	同上
9時40分	避難所に避難開始、組単位で全員一緒に 避難所への避難支援訓練も兼ねる。 ふくし・防災ガイド&マップ活用危険箇所把握	同上
9時50分		避難所開設宣言、受付開始 避難者カードに記載・受付・誘導訓練実施 けが人・病人の受け入れ訓練 福祉避難室・福祉避難所への誘導訓練 各班の連携訓練・総務班応援訓練 カードのまとめ方訓練 在宅避難者名簿の纏め・連絡体制確認
10時20分		非常食配布・炊き出し訓練実施 中央区役所から訓練用入手して実施。
10時30分		訓練終了、反省会開催 マニュアルの問題点明確化・修正 必要備蓄品の明確化・補充対応 今後のスケジュール決定

事業の活動報告(実施日別)

実施日	実施場所	実施内容	参加者数
6/28	リバーレーン	コミ懇役員会で説明・方向付け	18
7/1 7/5	淑徳大 中央区役所	鏡教授とこの事業の進め方協議 プレゼンテーション・審査会	3
7/7～3/31	各避難所等	各避難所運営委員会・役員会の開催(2～6回)	8～65
7/14	宮崎公民館	コミ懇役員・避難所運営委員長合同会議 本年度テーマ打ち合わせ、8/31に各避難所で「タイムスケジュール」通り訓練を極力実施することとした	20
8/31	各避難所等	避難所立ち上げ・運営訓練、安否確認・避難支援訓練、その他訓練実施、反省会も一部で実施	1197
9/26	淑徳大	避難訓練状況の報告と研修会内容の打ち合わせ	3
12/3	宮崎公民館	コミ懇役員・避難所運営委員長合同会議 8/31の報告・研修会等の打ち合わせ	22
12/13	蘇我C.C.	災害時の不安を軽減する安心・安全体制づくりについての研修会、講師は淑徳大鏡教授	102
1/27	淑徳大	避難所交流研修会についての打ち合わせ	3
2/14	南部青少年C	避難所交流会・研修会実施(鏡教授から各コメント)	87

避難所開設運営訓練市民参加者数

避難所名	市資料	実数	避難所名	市資料	実数	避難所名	市資料	実数	避難所名	市資料	実数
生浜西小	3		新宿小	2		大巖寺小	15	13	弁天小	5	
生浜高校	15		都市緑化植	4		大森小	530	501	千葉公園体	3	
千葉南高校	296	300	星久喜公民	3		ビジネスSC	2		武道館	4	
千葉高校	3		星久喜中	3		科学館	3		末広公民館	3	
寒川小	3		生浜東小	40		子育て支援	3		千葉ポート	4	
蘇我C.C.	3		生浜公民館	5		椿森公民館	2		新宿中	20	
勤労市民P.	3	6	中央C.C.	4		鶴沢小	3		院内小	3	
蘇我小	3	25	ハ一モ二P	14		登戸小	100		宮崎小	60	88
松ヶ丘公民	3		川戸公民館	10		生浜中	12		千葉工業校	-	32
松ヶ丘小	82		川戸中	3		南部青少年	1	70	宮崎公民館	-	10
千葉商業校	3		川戸小	15		蘇我中	143	140			

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(1)

避難所名	千葉市立蘇我中学校
代表者名	未定
訓練日時	2014年8月31日(日) 8時 30分 ~ 10時 30分
訓練参加者	合計 140人 (運営委員 20人、避難者 120人) (大人 110人、子ども 10人)
具体的な実施内容	第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事) 建物の周りを回って、安全確認し開設 受付・救護場所づくり、待機場所の町会別区割りを行った 第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練) 第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練) 受付、避難者カード記入、待機、けが人の訓練、炊き出し(アルファ米にお湯を入れて試食)
今後の予定	未定
その他	
H27年2月現在	10月 前運営委員長が町内会長を降りたため、現在は運営委員長不在。 年度内に決定する予定。

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(2)

避難所名	蘇我小学校避難所
代表者名	高橋 穰
訓練日時	2014年8月31日(日) 午前8時 30分 ~ 10時 45分
訓練参加者	合計 25 人
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事)</p> <ol style="list-style-type: none">1.「避難所施設被害状況確認票」をもとに、地震による避難所の外部の確認。2.避難所の解錠。3.避難所の内部について被害状況を確認。立ち上げ訓練の宣言。4.全運営委員で受付の開設準備と避難所場所割り振り。受付準備所要時間15分、場所割30分を要した。準備に入る前に、各活動班ごとに、活動内容について活動内容記載文書を読み活動を確認。⇒活動5.非常用井戸については試運転を行った。6.備蓄品倉庫内の物資の確認。7.訓練終了後の核活動班の反省会の実施。8.後始末9.避難所立ち上げ訓練閉会式 <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p>
今後の予定	今後の訓練内容の確認のため、副委員長・活動班長で事前にどのような訓練内容にするか、検討委員会を設置・協議・提案するようにしていく。
その他	
H27年2月現在	2/14今井連合町会として防災訓練(今井町会館)

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(3)

避難所名	千葉市立大森小学校
代表者名	大滝 勇
訓練日時	2014年8月31日(日) 9時 00分 ~ 10時 30分
訓練参加者	合計 501人 (運営委員 50人、避難者 451人)
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事) 地震発生の9時に運営委員集合(9時半に避難者が来る) 体育館内をテープで町会ごとに割り振り、各町内の幟旗を立てた。 13の受付場所づくり</p> <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練) シェイクアウト</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練) 開設、受付にて避難者名簿に記名、町会ごとに集合、運営委員長・校長の挨拶、市の職員紹介、シェイクアウト、町内会ごとに非常食の配布</p>
今後の予定	9月26日、運営委員会の予定(反省等)
その他	各町内会の幟旗を昨年の反省を踏まえ作っておいた。 400個の非常食を用意していたが、不足! 3つの町会には後日配布 避難所運営ゲームHUG(ハグ)、昨年もやっているが、今年もやる予定
H27年2月現在	特になし

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(4)

避難所名	千葉市立宮崎小学校
代表者名	久能 隆
訓練日時	2014年8月31日(日) 9時00分 ~ 11時30分
訓練参加者	合計 88 人 (運営委員 85 人、避難者 0 人) (男性 53 人、女性 32 人) (大人 85 人、子ども 3 人) (要支援者 0 人)
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事)</p> <p>訓練準備 ①初動条件確認(参集場所・待機場所・鍵開け・その他) ②安全点検・備蓄品・資機材確認などの情報交換 ③全体会議に対する情報交換</p> <p>全体会議 委員長挨拶、市職員・施設管理者紹介 運営委員会設立経緯・規約説明 運営マニュアル説明(基本計画・基礎データ・活動班・行動指針)</p> <p>区割訓練 体育館フロアに居住区割訓練</p> <p>応急訓練 AED講習と操作訓練</p> <p>解散 片づけ、非常食配布</p> <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p>
今後の予定	対象町内会と市の指導のもと毎年実施していく
その他	<p>参加町内自治会</p> <p>① 南町共栄会の一部 ②宮崎町町内会 ③宮崎町自治会 ④宮崎団地自治会 ⑤ 宮崎一丁目自治会 ⑥県住千葉寺A棟自治会 ⑦県住千葉寺B棟自治会 ⑧ 県住千葉寺C棟自治会 ⑨県住千葉寺中層運営会 ⑩千葉寺第二県住自治会 11 エステスクエア青葉の森自治会</p>
H27年2月現在	特になし

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(5)

避難所名	千葉市立大巖寺小学校
代表者名	山中 弥二郎
訓練日時	2014年8月31日(日) 8時 30分 ~ 11時 30分
訓練参加者	<p>合計 13人</p> <p>(運営委員 6人、避難者 0人) 学校(3名)</p> <p>(男性 10人、女性 3人) 市職員(4名)</p> <p>(大人 10人、子ども 0人)</p>
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事) 運営委員と市の職員、学校のみ集合 市から配布された物資の数を確認(シートの枚数等、体育館倉庫にあるもの)</p> <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p>
今後の予定	
その他	
H27年2月現在	1月17日、9:30~12:00 セーフティー千葉にて「防災とボランティア週間」に伴う訓練に参加

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(6)

避難所名	千葉工業高校
代表者名	宍倉 和雄
訓練日時	2014年8月31日(日) 8時 30分 ~ 11時 00分
訓練参加者	合計 32人 (運営委員 32人、避難者 人)
具体的な実施内容	第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事) ①施設安全点検 ②設備機器稼働点検 ③備品置場 数量点検 ④避難所錠前、設置場所、新設確認 第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練) 第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)
今後の予定	マニュアル一部見直し、作成、配布
その他	
H27年2月現在	H26年12月18日 地域合同防災訓練を実施。 (消火・救急救命訓練、炊き出し)

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(7)

避難所名	千葉南高等学校
代表者名	武井 雅光
訓練日時	2014年8月31日(日) 8時 15分 ~ 11時 15分
訓練参加者	合計 300人(運営委員 52人、避難者 248人)ほかに安否確認のみ参加8名 男女比で女性が60%近く(うち、子ども 約20人)(要支援者 0人)
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事)</p> <p>南高校では川戸中地区から4町内自治会、蘇我中地区から3町内自治会が参加する混成で、さらに南高校の協力も最低限に制限される避難所であったため、役員会(7/28)のほかに全体会を2回(5/14・7/7)。各班ごとの会合も別途あり、マニュアル及びタイムスケジュールに定めたすべての項目を比較的順調に実施できた。</p> <p>非常食をはじめ備蓄品についてはすべて確認し、訓練として所定の場所に運んだが、実使用は別に準備したもので対応した。避難所の開設からすべてを運営委員で対応し、市職員については本部との連携業務及び受付に配慮が必要な人が来た場合の対応に限定し、学校職員についてはオブザーバー的役割とした。</p> <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>川戸中地区を含めてすべての町内自治会で実施し、避難所にもほとんどの人がグループで来た。安否確認については事前に不参加の世帯を届け出てははっきりしていたため短時間で終了したところと、不在等で確認に手間取り避難所到着に40分以上の差がついてしまった。今回の訓練では避難支援が本当に必要な人については安否確認の訓練までとした。</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p> <p>マニュアルおよびタイムスケジュール通りにほぼ実施できた。受付での混雑防止について、避難者カードを事前に配り書いて持ってきてもらったためかなり改善したが、訓練参加人数把握のために受け付けて名前を記載したため、相当の受付待ち時間が発生してしまった。受付時のスムーズ化を図りたい。</p>
今後の予定	南高校の避難所運営委員会としては、今年又は来年早々に役員会・運営委員会を開催して改善を進める。また第9地区連協内の避難所運営委員会の交流会や研修会に積極的に多くの委員に参加してもらい、避難所のレベル向上をはかりたい。
その他	<p>訓練終了後の運営委員による反省会</p> <p>訓練終了直後で印象が強かったことも在り、多くの委員から反省や改善点・要望等が出た。総務班でその要点を議事録にしてくれたので、次の委員会で再度議論し次の訓練に備えたい。</p>
H27年2月現在	2/7に役員会(各班長・副班長を含めて19名で構成)を開催し、来年度に向けた協議を行う。 来年度も訓練を行う予定で、日程としては千葉市に歩調を合わせ8/30を考えている。詳細は新役員会で決める。役員の任期は2年としたが、一度に変わると問題があるので、町内自治会の役員の変更があっても半数は残るようにする。

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(8)

避難所名	宮崎公民館
代表者名	避難所運営委員会委員長 水上進
訓練日時	2014年8月31日(日) 9時00分 ~11時30分
訓練参加者	合計 10 人 (運営委員 10 人、避難者 0 人) (男性 8 人、女性 2 人) (大人 10 人、子ども 0 人) (要支援者 0 人)
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事) 夜間に大地震、停電、施設管理者は自宅という想定で、避難所の立ち上げまでの訓練を行ない運営マニュアルの確認を行なった。</p> <p>① 施設管理者 委員長 全委員へ開設と応援の要請 ② 施設の安全確認(外部から) ③解錠、内部点検、備品の簡易照明を各所に配置 ④ 施設管理者、市職員、運営委員、参集者に委員長から状況報告 ⑤ 区災害対策本部に施設状況報告 ⑥受付等の準備 ⑦ 避難所開設の報告 ⑧発電機運転 ⑨反省会</p> <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p>
今後の予定	<p>○避難所としての訓練予定は今のところなし</p> <p>○南町共栄会として、第2ステップの訓練を11月にモデル地区で行なう予定</p>
その他	
H27年2月現在	<p>10月、15回目の運営委員会にてマニュアルを完成。</p> <p>来年度、JR宮崎アパート親和会の役員が変わるため5月に顔合わせ。新年度(9/1避難訓練)の計画を策定。</p> <p>南町共栄会としては11月に安否確認の訓練を実施。</p>

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(9)

避難所名	千葉市蘇我勤労プラザ避難所
代表者名	伊藤 日出男
訓練日時	2014年8月31日(日) 8時 30分 ~ 10時 00分
訓練参加者	合計 6人 (運営委員 6人、避難者 人)
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事)</p> <ul style="list-style-type: none">①全員集合後、市担当職員より本日の訓練の説明を受ける。②建物周囲を巡回し、安全確認訓練。③備蓄品や資器材の確認。④避難所運営についての質疑を行い解散 <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p>
今後の予定	運営委員会全員を集めての訓練を実施の予定だが期日は未定。
その他	今回は蘇我コミュニティセンターでの訓練に参加したため、参加者は主要メンバーの参加にとどめた。
H27年2月現在	2/14今井連合町会として防災訓練(今井町会館)

H26.8.31避難所立ち上げ訓練アンケート結果(10)

避難所名	南部青少年センター
代表者名	藤浪 康彦
訓練日時	2014年8月31日(日) 8時 30分 ~ 10時 30分
訓練参加者	<p>合計 70人</p> <p>(運営委員 10人、避難者 60人) 白旗一丁目(27名)</p> <p>(男性 人、女性 人) 白旗町内会(15名)</p> <p>(大人 人、子ども 1人) 白旗台団地(7名)</p> <p>(要支援者 人) 親栄会(11名)</p>
具体的な実施内容	<p>第1ステップ(避難所運営委員と市職員・施設管理者で避難所の立ち上げを行う事)</p> <p>センターは開館していたため中には入れないことは受付時説明をし、了承を得た。受付では、避難者カードを記入したものとし、小塚台公園に待機していただいた。</p> <p>公園にて、介護支援・簡易トイレの使い方等の話をした。</p> <p>保存食と乾パンを配布</p> <p>第2ステップ(安否確認訓練と避難支援訓練)</p> <p>第3ステップ(避難所に避難してきた地域住民の受付から始まる一連の対応訓練)</p>
今後の予定	来年度は、避難者カードは7月までに配布し、記入していただく予定(一丁目)
その他	今年度、一丁目自治会では9月に避難者カードを記入していただき回収した。 センターは和式のトイレが多く、洋式は6ヶ所のみ、簡易トイレのやり方は不評。一考願いたいと市には伝えた。
H27年2月現在	特になし

第50回コミュニティ懇談会

災害時の不安を軽減する安心・安全体制づくり(2)

平成27年2月14日(土) 千葉市南部青少年センター



高齢者がいたのでパイプいすを用意した。

実際に支援の必要な方に参加していただくと、支援のあり方がわかってくると思います。



既存の自主防災組織では千葉工業、避難所運営委員会では蘇我小学校。どちらを優先すれば良いのでしょうか？

それぞれの組織で問題を共有することが大事です。改めて話し合い行う事が大切ですし、継続的に話し合って共有化していく事が重要。

避難所運営委員会の中に自主防災組織が取り込まれていきます。自主防災組織を良い方向に合わせていく事になります。(武井会長)





去年は350名が参加したので400名を予想していたが500名を超えた。



500人の訓練とは貴重な経験をしたと思います。整然と決められた行動を取るために、例えばのぼりやマークですとか住民がわかるようなサインを日ごろから用意することが大切です。



収容力の問題。想定では4000人。宮崎小体育館は約800人。備蓄品が少ない。発災時に必要な運営委員が集まれるか、課題が多々ある。

実際に4000人集まるとはわかりませんが、ある程度のキャパシティーは必要です。実態に合わせた数に対応する事が必要で、初めから無理がある数字で何とかして下さいというのは、無理な話だと思います。避難所を指定する行政ときちんと協議していくことが大切だと思います。



山の中なので津波の心配はない。心配なのは地震だけ。地形的に避難する必要がないのではと思っている。山を越えて小学校に行くよりも各自が自分の家にいた方が安心。したがって何もしていない。

大災害は何が起こるかわからない。竜巻、落雷、雹など、想定外は沢山ある。それらを念頭に入れながら訓練をするということが大切です。





遠方からの避難者。体の不自由な方の避難支援について、高校生との合同訓練を行なった。積極的に参加してくれて期待ができた。

高校生の若い力を支援に結びつけた取り組みは素晴らしいと思います。



受付での混雑防止について、避難者カードを事前に配り書いて持ってきてもらったためかなり改善したが、訓練参加人数把握のために受け付けで名前を記載したため、相当の受付待ち時間が発生してしまった。実際の災害で運営委員が半数になっても運営できるよう対応。

事前から綿密な計画を立てて実施している。問題点も共有化しており、訓練の効果は大きいと感じた。引き続き継続して行っていただきたい。



蘇我勤労市民プラザは 2015 年 8 月 31 日で閉館し、7 ヶ月の閉館期間に入ります。となりに蘇我コミュニティセンターがありますが耐震など不安があり、この間の避難所に対する住民の不安もあるので、市と話し合っていきたいです。

住民の方々の不安が無いように関係機関と話し合ってください。



研修会・交流会の纏め

大規模災害が起きたときにまず対応しなければならないのは、個人ないし地域です。**最低三日間は水や食糧を確保**して、自分の生活や命を継続させ、暮らしを維持するということが必要です。数日すると、ボランティアの方々たくさん入ってきます。被災地域に行って話を聞くとボランティアの方々をまとめて必要なところに結び付けるマッチングが大変ということを知っています。その意味で、災害時に人の流れ等を作る事を訓練する事も必要ではないかと思えます。

避難者の中には、**子どもや女性、要援護者や精神的な疾患のある方、難病を抱えている方など、特別な支援を要する方々**がいます。その方々をどこまで避難所で対応するのかが大変難しい。できることとできないことをきちんとさせていくことが必要ではないでしょうか。

今回は暑い中でした。体育館の中は蒸し暑かったと思えますし、校庭も熱かったと思えます。避難する際も季節を想定しながら訓練されることが大切だと思えます。冬には、別の対応が必要になります。非常に貴重な意見や経験をしていただきました。**継続は力です**。これを続けていくことが厚みのある安心を共有化するための取り組みと考えます。